Empowered by Innovation NEC

Solution Service UNIVERGE Product

UNIVERGE RD1000

IEEE802.1X対応RADIUS認証サーバ

確かなセキュリティで安心なネットワークを実現する
RADIUS認証サーバ。

オフィスでのネットワークアクセスに必要なのは“安心”なネットワークアクセスです。そのためのセキュリティ対策として、近年、有線／無線を問わずIEEE802.1X認証と暗号化技術を用いたセキュリティの確保が話題となっています。

UNIVERGE　RD1000(※1)は、確かなユーザ認証技術で有線／無線LANシステムのセキュリティ強化を実現します。また、UNIVERGE RD1000とIEEE802.1Qに対応したスイッチ、及びアクセスポイントの組合せにより、認証後ユーザ毎にVLAN割り当てを行う認証VLANの実現も可能です。

さらに、InfoCage　PC検疫サーバとの連携と認証VLAN機能を併用することで、PC検疫システムを構築することが可能です。

UNIVERGE　RD1000は、RADIUS認証および、IEEE802.1X認証を有し、有線／無線LANネットワークにアクセスするユーザの認証(Authentication)、権利認証(Authorization)を柔軟に行い、アクセス記録を出力するアカウント機能(Accounting)や、Proxy機能もサポートします。

また、サーバ設定の際には、操作性の良い日本語WEB/GUI方式を採用し、冗長化した際には、マスタとスレーブ間でのデータ同期機能により、運用管理者の負担を大幅に軽減します。さらに、ディレクトリ連携機能としてLDAPv3に準拠したディレクトリサーバ及びActiveDirectoryと連携し、ユーザの一元管理が可能です。

※1:UNIVERGE RD1000は、ソフトウェア製品です。

●IEEE802.1X認証及びMAC認証をサポート

IEEE802.1X認証に対応したEAPの方式として、以下の4方式をサポートしています。

・EAP-MD5　・EAP-TLS　・EAP-TTLS　・PEAP

●日本語WEB/GUIにより操作性の容易さ

サーバ設定を行う際には、日本語WEB/GUIにて操作可能であり、設定や変更を容易に行うことが可能です。

●VLAN対応

認証VLANを利用するためのVLANアトリビュート付加を行うことが可能です。

●冗長性

複数台構成で両系ACTによる冗長構成を取ることが可能です。この構成では、ユーザデータ、アクセス装置情報等をレプリケーション機能により自動連携します。(※2)

●プライベートCA機能

プライベートCA機能をサポートしており、認証サーバUNIVERGE RD1000で証明書の発行・管理をすることが可能です。

●ActiveDirectory連携機能(オプション機能)

ActiveDirectoryサーバと連携し、ユーザ認証を行うことが可能です。

●InfoCage PC検疫連携機能(オプション機能)

InfoCage PC検疫と連携することにより、802.1X認証を利用したPC検疫システムを構築することが可能です。

●Proxy-RADIUS(オプション機能)

認証サーバの負荷分散、部門認証サーバへの認証Proxy、Proxy代行が可能です。

●セッション管理(オプション機能)

同一アカウントでの重複ログインの禁止や同時接続数の制限を行うことが可能です。

●IEEE802.1X連携DHCP機能(オプション機能)

IEEE802.1X認証を行ったユーザに対してIPアドレスを払い出すことでユーザの一元管理をWeb上から行うことが可能です。

※2:オプション機能の情報はレプリケーションできません。

UNIVERGE ユビキタスワークプレース

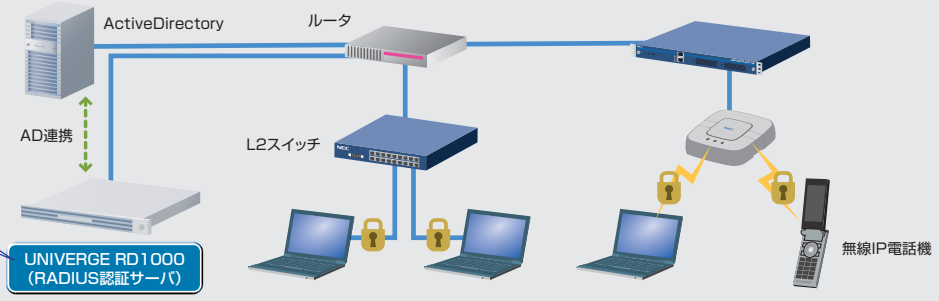
UNIVERGE

UNIVERGE RD1000

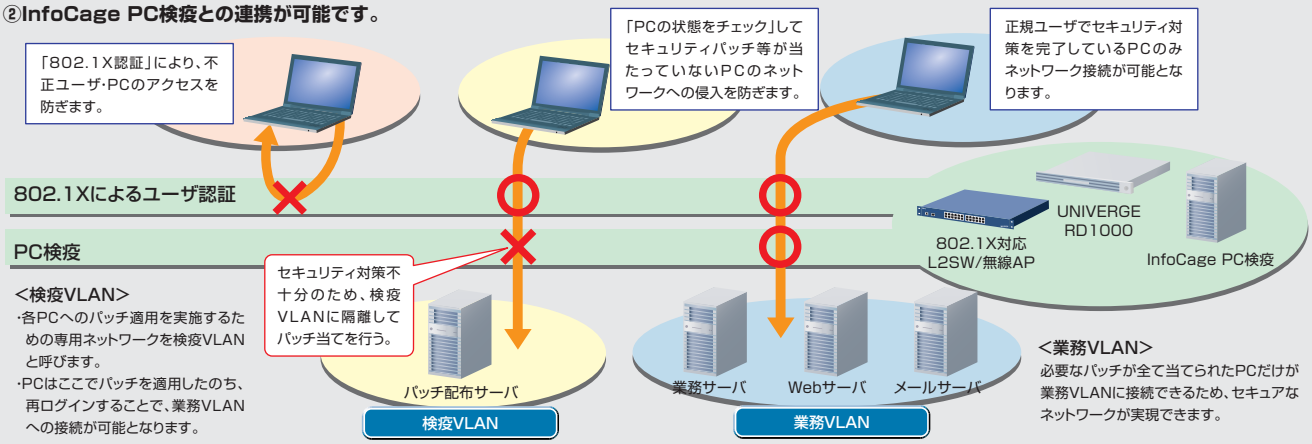
アプリケーション例

①有線LANと無線LANの認証を一元的に行うことが可能です。

UNIVERGE RD1000の位置づけ
無線LANアクセスポイント、L2/L3スイッチからの802.1X認証やMAC認証の要求に対して、接続ユーザの認証情報を検索し、正しいユーザかどうかの判断を行い、応答を返します。



②InfoCage PC検疫との連携が可能です。



<検疫VLAN>
・各PCへのパッチ適用を実施するための専用ネットワークを検疫VLANと呼びます。
・PCはここでパッチを適用したのち、再ログインすることで、業務VLANへの接続が可能となります。

<業務VLAN>
必要なパッチが全て当てられたPCだけが業務VLANに接続できるため、セキュアなネットワークが実現できます。

機能・性能

製品名			UNIVERGE RD1000
ハードウェア要件(※1)	CPU条件		Pentium IV 2GHz以上推奨、1CPU以上
	必要メモリ量		512MB以上推奨
	必要HDD容量		5GB以上推奨(プログラム領域として約100MB必要)
対応OS			Red Hat Enterprise Linux ES 3、ES 4
最大登録可能ユーザ数			30,000ユーザまで
最大登録可能装置数			1,000まで
対応認証方式			・EAP-MD5 Challenge　・EAP-TLS　・EAP-TTLS(※2)　・PEAP(※3)
処理能力(※4)	通常認証		200認証／秒
	802.1X認証	MD5	100認証／秒
		TLS/TTLS/PEAP	20認証／秒
ActiveDirectory連携機能(オプション機能)			ActiveDirectoryサーバと連携し、ユーザ認証を行うことが可能
InfoCage PC検疫連携機能(オプション機能)			InfoCage PC検疫と連携し、802.1X認証を利用したPC検疫を行うことが可能
Proxy-RADIUS(オプション機能)			認証サーバの負荷分散、部門認証サーバへの認証Proxy、Proxy代行が可能
セッション管理(オプション機能)			重複ログインの禁止や同時接続数の制限を行うことが可能
IEEE802.1X連携DHCP機能(オプション機能)			IEEE802.1X認証を行ったユーザに対してIPアドレスを払い出すことでユーザの一元管理をWeb上から行うことが可能
SNMP			SNMPv1に対応(SNMP Trap送信可能)
ダイナミックVLAN			認証VLANの為のVLANアトリビュート付加が可能
ユーザインタフェース			日本語WEB/GUI(※5)

※1:UNIVERGE RD1000は、ソフトウェア製品です。ハードウェアが別途必要になります。(保守契約を締結する場合、ハードウェアとしてNEC製Express5800を利用する必要があります)　※2:パスワード形式としては、PAP方式またはCHAP方式になります。　※3:パスワード形式としては、MS-CHAPv2方式になります。　※4:処理能力はハードウェアスペックやネットワーク構成、オプション機能の有無によって異なります。本処理能力は標準機能使用時の参考値です。
※5:対応ブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6.0、7.0(V4.4から)、Mozilla Firefoxです。

⚠ 安全に関するご注意　★本製品の設置・接続・使用に際しましては、取扱説明書などに記載されております注意事項や禁止事項をあらかじめ熟読のうえ、必ずお守りください。

●このカタログの内容は2008年8月現在のものです。
●UNIVERGEは、日本電気株式会社の登録商標です。その他の社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
●本製品は利用するOS、アプリケーションにより、外国為替及び外国貿易法の規定に該当する場合がありますので、日本国外に輸出する場合には、同法に基づき日本国政府の輸出許可又は役務許可が必要です。従って、本製品を日本国外へ輸出する場合にはOS、アプリケーションが該当か非該当かの確認が必要です。
●本カタログに掲載されている内容は、改良のため予告なくデザイン・仕様を変更する事があります。

お問い合わせは右記のNECへ 第一ネットワークソリューション事業部／第二ネットワークソリューション事業部／UNIVERGEソリューション推進本部

UNIVERGEインフォメーションセンター
E-mail:univergeinfo@usc.jp.nec.com
TEL:0120-75-7400

詳しくは ユニバージュ 検索
www.nec.co.jp/univerge/

モバイルサイトはこちら

PRINTED WITH SOY INK
環境にやさしい大豆油インキを使用しています

Cat.No.BCC156　ver.4　08081004MeM

日本電気株式会社　〒108-8001　東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル)